

## 2014年パインアップル缶詰市況



### 平成26年度パインアップル缶詰 関税割当数量(TQ枠)

農林水産省より平成26年度(平成26年4月～平成27年3月)のパイン缶詰の関税割当数量が公表され、割当数量は4万1千200トンで、前年の割当数量4万1千600トン比べて400トン減、缶詰換算(※)では、201万8千ケースで、前年の203万8千ケースに比べ2万ケース減となりました。

◆平成26年度TQ枠比率(沖縄品:輸入品) = 1:61.1

平成25年度 = 1:63.6 ※1ケース=20.412kg換算

関税割当数量は、毎年、沖縄パインの生産状況及び輸入パインの需給バランスを考慮の上、決定されます。近年輸入パイン缶詰の総需要量が減少しており、それが関税割当数量の減少に影響しているといえます。

### 沖縄パイン市況

平成25年産の沖縄産パインアップル缶詰については、平成23年、24年の台風被害の影響が予想以上に大きかった事や、一年で一番実りの多い夏実が少なく秋実中心の収穫となった事が影響し、原料搬入量は計画の8割強の1,419トン(計画:1,850トン)、缶詰製造実績は前年度同の2万1千箱で終わり、3年連続の減産となりました。

平成26年産については、原料搬入量を1,850トンで計画していますが、これでも東村総合農産加工施設(国の助成で平成21年竣工、管理はJA沖縄・東村国頭村等が出資した株式会社沖縄総合農産加工が運営)の集荷計画、3,600トンにはかなり及んでいません。このため、東村総合農産加工施設に新しく農産部を設け、直営パイン農場を運営する事にし、この圃場からの収穫は来秋以降となります。

今年の沖縄本島の天候は、梅雨入りが早かったものの、現在パインアップルの生育に大きな問題は見られませんが、株の生育が不十分(定植後の台風や昨年夏期の干ばつ等の被害により株が小さい)なため、小玉果が増えると予想されています。

### 輸入パイン産地市況

#### 【タイ】

主産地タイでは、ここ数年続いた原料価格の低下により転作をした農家が増え減反となった状況や、年明け以降続いた低温により、全体に小玉傾向で原料品質も良くない状況が続いて歩留まりが悪化し、原料価格は8パーツ/kg(平時時:4~5パーツ/kg)まで高騰し、今期の収穫高は、約40%減の120万トンの予想となっています。(平時時収穫高:200万トン/年)なお製品価格は、昨年より10~13%上昇しています。

#### 【インドネシア(GGPC社)】

タイの悪い状況を受け、これまでタイとインドネシア両国から買い付けていたバイヤーがGGPC社への発注を増やしたため、同社の生産キャパは一杯になっており、新規オーダーを受けるのが困難な状況となっています。

なお価格面においては昨年より6~7%値上がりし、現在ではタイ産チビットとほぼ横並びで高値で推移しています。

#### 【フィリピン】

昨年ミンダナオ島を襲った台風による洪水が原因で収穫量が減少し、安定していた需給バランスが崩れ、原料価格は昨年比約8%上昇しています。

上記状況により、DOLE社フィリピン工場も、良質な原料の確保が困難で生産対応に追われている模様です。

また、今後はエルニーニョによる冷夏もしくは雨不足が影響し、原料不足に拍車をかける事が懸念されています。

弊社ではパインスライス3号缶、パインチビット(1/8カット・1/16カット)1号缶を品揃えしていますので、商品ごとの詳しい動向につきましては、弊社営業担当者までお問い合わせ下さい。

